

NCGGセミナー

演題名： 細菌叢・ゲノムから紐解く血管性認知症

演者：猪原匡史 先生

国立研究開発法人国立循環器病研究センター

副院長・脳神経内科部長

令和8年

■ 2月9日(月) 16:00開始

第一研究棟
大会議室

セミナー概要

血管性認知症の中で最も頻度が高い病型である脳小血管病(cSVD)とは小動脈、細動脈、細静脈、毛細血管に影響を及ぼす様々な病理変化を包括した概念である。加齢や高血圧に関連したI型cSVD、脳アミロイド血管症(CAA)のII型cSVD、CADASIL/CARASILを含む遺伝性のIII型cSVDなどが知られる。I型cSVDへの口腔・腸内細菌の関与や治療法の探索、II型cSVDのアミロイド関連異常への関与、III型cSVDに関しては、東アジア特異的な出血指向型CADASILの存在や創薬研究など、cSVD研究は活況を呈している。本セミナーでは、最新のトピックスを中心にcSVD研究をご紹介したい。

ご経歴

- 1995年 京都大学医学部医学科卒業
- 2003年 京都大学博士（医学）取得
- 2006年 英国ニューカッスル大学加齢医学研究所研究員
(脳血管研究部門Raj N. Kalaria教授)
- 2008年 京都大学医学研究科臨床神経学特定病院助教
- 2011年 京都大学医学研究科臨床神経学助教・病棟医長
- 2013年 国立循環器病研究センター脳神経内科医長
- 2016年 国立循環器病研究センター脳神経内科部長
- 2025年 国立循環器病研究センター副院長（併任） 現在に至る



GSRC秘書室 内線 7182 or 7371